上智大学
公開講座
2026年度
秋学期

地球に生きる
市民として、
自らの生き方を
自らデザインする

上智地球市民講座

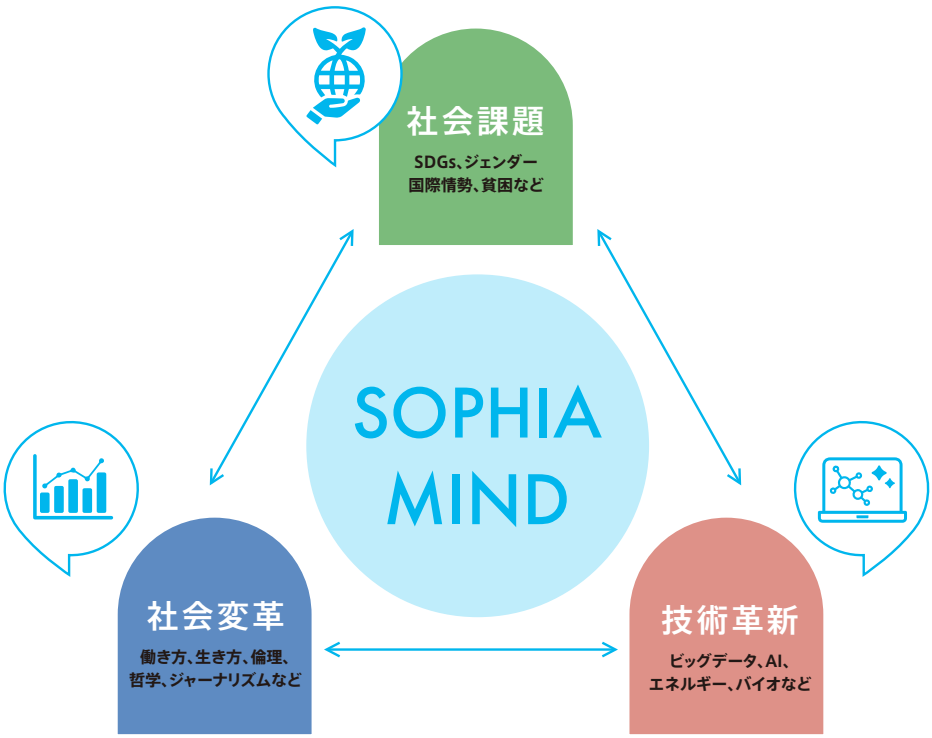
対象

社会人、大学生、
高校生はじめすべての方

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智地球市民講座とは？

社会変革の時代に、自らの『地球市民』としての生き方を、
前向きかつイノベーティブにデザインするための学びの場です。



「上智地球市民講座」は、国内外で同時進行しているこれらの事象と向き合い、
自分がどのように生きていくべきか、
自身を成長させる４つのマインドセット（Sophia Mind）の向上を目指します。

SOPHIA MIND

MIND 01 “個”を深める
自分に対する気づき・オリジナルな経験

MIND 02 “生きる”を彩る
多角的な視点・異質との出会い

MIND 03 “未来”を見つめる
今を知る・社会と自分の展望

MIND 04 “他者”に寄り添う
自身の相対比・他者との向き合い・奉仕

『地球市民』としての生き方を、自らデザインするための学びに

近年の急速な社会情勢の変化の中で、私たちは地球に住む市民として、どのように生き、社会に参画することで、よりよい自分や社会を実現できるのでしょうか。本学では、全ての人に開かれ、全ての立場が交流し、全ての目的に開かれる学びの場として、多様な立場の方が集い、様々な視点から議論し、新たな価値を創出する機会を提供するべく、2024年に"上智地球市民講座"を開設しました。本講座を通して、「智を展開する場」、「智が交流する場」を経験していただきたいと考えます。本講座が、どのような時代、社会背景にあっても、前向きに自らの生き方をデザインし、個を深め、"生きる"を彩るきっかけを得ていただけるものとなることを確信しています。

スペシャルオムニバス講座
全5回・各90分

※2026年度より新設

一般	18,000円
高校生以下	16,000円
上智関係者	16,000円

トピック講座
全1回・100分

※2026年度より新設

一般	3,500円
高校生以下	3,000円
上智関係者	3,000円

スタンダード講座
全4回・各90分

※2024年度より開講している従来型講座

一般	13,000円
高校生以下	11,000円
上智関係者	11,000円

※税込価格
※講座ラインナップのリニューアルにともない、2025年度と受講料が異なります
※2025年度に実施していた2講座同時申込パック割引はありません

「上智関係者」の対象

・上智大学、上智大学大学院、上智大学短期大学部の在学生（非正規生を除く）
・上智大学、上智大学短期大学部、上智社会福祉専門学校、聖母大学、聖母看護学校の卒業生
・後援会会員　・本学教職員（退職者含む）　・本学特別契約教授、本学特任教員

修了証明書の発行

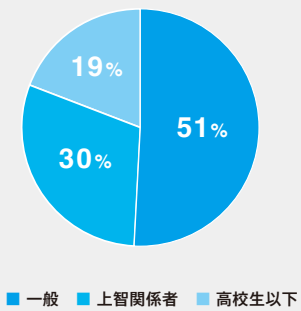
2026年度から、希望者に対して受講講座の修了証明書発行を開始しました（2024年度、2025年度開講講座の修了証明書の発行は不可）。
修了証明書の発行は無料で、PDF化した修了証明書をメール添付でお送りします（紙での発行は行いません）。

修了証明書の発行要件　※発行には下記の出席要件を満たす必要があります

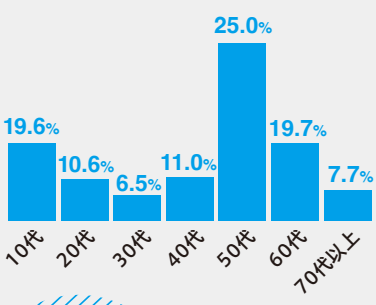
①スペシャルオムニバス講座：3回/全5回
②トピック講座：1回/全1回
③スタンダード講座：2回/全4回
※申請方法等は、上智地球市民講座 公式Webサイトの「受講規約」をご確認ください

多様な受講者とともに学べる環境

2025年度受講生区分

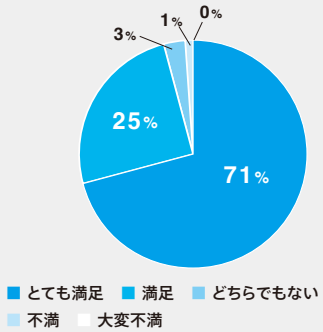


2025年度年代別受講者割合



受講満足度96%

2025年度秋学期 受講満足度



…オンライン講座　…対面講座

01 スペシャルオムニバス講座

※2026年度より新設

特定のテーマを様々な学問領域からアプローチすることで、異なる学問分野間の想定外な接点への気付きや多角的かつ新たな視点を身につけ、学際的スキルを養える、上智大学ならではのオムニバス（輪講）型特別講座。
本講座では、「AIと共に生きるために」をテーマに、各回を担当する様々な学問分野の専門家の視点からAIとの共存を考えます。

各90分 × 全5回

講座名　AIと共に生きるために　ー多角的な視点でAIとの共存を考えるー

講義概要

第1回 イントロダクション ー生成AIの原理と、共に生きる上での課題とはー

講師：理工学部 情報理工学科 准教授　山中 高夫

近年、文章や画像を自動で生成する「生成AI」が急速に普及し、私たちの身近な存在となっています。一方で、ディープフェイクの拡散や著作権、バイアスといった問題も現れています。本講義では、画像生成や対話型AIを例に、生成AIがどのような原理で動いているのかを技術の立場から分かりやすく紹介します。そのうえで、AIの発展によりどのような課題が生じているのか、生成AIとどう向き合うべきかを参加者の皆さんと共に考えていきます。

第2回 法とAI ーAIの法的責任？ AIによる裁判？ー

講師：法学部 法律学科 教授　照沼 亮介

その利便性による急速な浸透に伴い、これからの社会においてはAIとの「共生」を前提とすることになっていくものと思われます。他方、さまざまな問題や弊害が生じつつあることに鑑み、適切な法規制のあり方が国際的な問題として模索されているところです。本講義ではその一端を覗いたのち、「AIの権利主体性」「AIによる裁判」という問題をめぐる法律学の議論を紹介し、AIに対する法規制のあり方について考えたいと思います。

第3回 死生観とAI ー死者AIが社会にもたらす新たな議論ー

講師：実践宗教学研究科 死生学専攻 教授　佐藤 啓介

AIの登場によって人の生や死に関わる領域にも新しい議論が生まれています。その一つが「故人をAIで蘇らせる技術」をめぐる議論です。死別した故人にAIを通して会いたいと考える人がいる一方、それは故人への冒とくなのではないかといった批判や、ディープフェイクとして悪用されるリスクもあります。他方で、AI故人を用いた新たな葬送文化も生まれつつあります。AI時代における死生観の変化を考え、AIとの共存のあり方を探っていきます。

第4回 教育とAI ーAIの進化で英語教育は終わるのかー

講師：言語教育研究センター 准教授　今井 康博

近年のAIや機械翻訳の目覚ましい進化と機能については、私たち語学教師にとっても、話題に上らない日はありません。世間では「語学不要論」もささやかれる一方で、教室ではAIの使用を禁止・制限する例もあります。こうした中、とかくAIそのものに注目しがちですが、そもそも私たちはなぜ英語を含む外国語を学ぶのでしょうか。また、ことばを学び、使うという営みは、私たち人間にとってどのような意味を持つのでしょうか。そうした根源的な問いかけに立ち返り、AI時代の語学（英語）教育のあり方について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第5回 哲学とAI ーAIをめぐる倫理的問題ー

講師：元文学部 哲学科 教授、哲学研究者　寺田 俊郎

AIをめぐる倫理的問題には二種類あります。一つはAIの道徳的地位をめぐる問題で「AIは道徳的責任を問われるか？」「AIには道徳的配慮を受ける権利があるか？」などの問いに代表されます。もう一つはAIが引き起こす倫理的問題で「プライバシーとデータ保護」「ユーザーの脆弱な立場」など多岐にわたります。いずれの問題を考えるのにも、これまでの哲学の議論が考える材料を豊富に提供してくれます。それらも参考にしつつ共に考えましょう。

日　程
①10月3日（土）14:15～15:45
②10月17日（土）14:15～15:45
③10月31日（土）14:15～15:45
④11月21日（土）14:15～15:45
⑤12月12日（土）14:15～15:45

※講師肩書は、2026年7月時点

…オンライン講座　…対面講座

02 トピック講座

※2026年度より新設

年齢・経験問わず多様な方が関心をもつ時事や流行トピックを、専門家の視点で紐解く単回講座。
受講者の時間的負担が少なく、気軽に上智地球市民講座の魅力を体感していただけます。

100分 × 全1回

私たちは翻訳語を通して世界を見ている
ー日本の輸入学問の功罪ー

日程　10月31日(土)14:15-15:55

講師:特任教授　苅谷 剛彦

現代の日本社会で使われる言葉の多くは、西洋の概念を漢字や片仮名に当てはめた「翻訳語」です。その多くは、「自由」や「平等」、「民主主義」「人権」のように、(当時)西洋にはあり日本になかった理想や現実を示す言葉として導入されてきました。しかしそれらの言葉の意味は多義的かつ曖昧であり、元の言語の意味と同じとは限りません。しかし、これらの言葉が翻訳語として定着すると、私たちはその意味の異同を十分に理解しないまま、「わかったつもり」で議論を進めてしまいます。例えば「平等」という言葉一つとっても、その定義は多義的で一義的には捉えきれない難しさがあります。この講義では、私たちが日常的に使う言葉の性質として、それが翻訳語であることから、意味が曖昧なままに留まることの功罪について問題にします。それは特に私たちが教育を語るときに現れます。知識社会学の視点から、日本で用いられる概念が翻訳語によってどう構築され、私たちの認識枠組みにどう影響しているかを分析することで、私たちの社会の認識・理解の特徴について考えてみたいと思います。

社会心理学から見る「状況の力」
ー社会的影響とマイクロ・マクロ関係ー

日程　10月20日(火)18:30-20:10

講師:総合人間科学部 心理学科 教授　樋口 匡貴

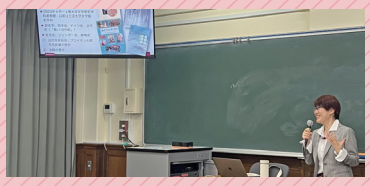
私たち人間の行動は、置かれている状況に大きく左右されます。周りの人が何を言っているのか、どうふるまっているのか。私たちを取り巻くさまざまな状況は、私たちの行動選択に対して非常に大きな力を持っています。本講座では、こうした「状況の力」について、社会心理学で行われてきたいくつかの実験を紹介しながら説明をしていきます。またこの「状況の力」はかなり過小評価されています。いいことをした人はいい人でしょうか。状況の力を考慮した場合、同じ人であっても、状況によっていいことをする時もあれば悪いことをする時もあるはずです。この状況の力の軽視についても解説します。そして最後に、この状況を作っているのは一体何なのかについても考えたいと思います。「状況の力」の重視はある種の決定論的な発想だと思えるかもしれません。しかし実はその状況を作り出しているのは、私たち人間の力に他ならないのです。この点を実感していただけることが本講座の目的です。

なぜ同じ世界が違って見えるのか？
ー地球市民として「マジョリティ特権」と向き合うー

日程　12月19日(土)14:15-15:55

講師:外国語学部 英語学科 教授　出口 真紀子

地球市民としての第一歩は、自らの様々な立場性を見つめ直すことから始まります。本講座では、個人がもつ優位な側面(特権)に目を向け、それがどのように社会構造や不平等の仕組みと結びついているのかを考えます。私たちの世界の見え方が異なるのは、それぞれの立場(ポジショナリティ)が影響しているためです。講師は長年にわたり本テーマの教育・講演に携わってきた経験から、「見えないものを見える化する」ことがいかに重要であるかを自覚してきました。特にマジョリティの特権を学ぶことは、マイノリティの立場への想像力を高め、職場や日常生活における対人理解や関係性の質を向上させることにもつながります。特権への気づきは単なる知識ではなく、物事を批判的に捉えるクリティカル・シンキングの実践でもあります。その理解をもとに、自身の特権をどのように社会変革の力へとつなげ、日常の中で具体的に行動していくのかを探ります。



※講師肩書は、2026年7月時点

03 スタンダード講座

※2024年度より開講している従来型講座

「社会課題」「技術革新」「社会変革」などに関連するテーマについて、一人の講師が一貫して講義を行う従来型講座。
2026 年度からは、日本語で学ぶ通常クラスに加え、英語で学ぶ「English-taught class」を開講します。

各90分 × 全4回

※New from 2026

英語で学ぶ［English-taught class］

Great Stories and Our Lives:Critical Reading and Thinking in English (2)

名著と人生：英語による読解と思考(2)

講師：国際教養学部 国際教養学科 教授　ユー・アンジェラ

In this course, we will read selected thought-provoking short stories and think about why they are important and relevant to our lives. Stories include selection from Greek and Chinese philosophy, the Bible, as well as contemporary writers and thinkers. All reading materials are short and available in English translation, and students are encouraged to participate in group discussions in class. Basic English is fine, and students are encouraged to challenge themselves to think and share in English as much as possible. This is a course for students to polish their reading, thinking, and communication skills in English. The course content differs between the spring and fall semesters. Since the courses are not designed to be taken sequentially, we welcome students to enroll starting in the fall semester.

(和訳)このコースでは、厳選された示唆に富む短編を読み、それらが私たちの生き方にとってなぜ重要で関連性があるのかを考えます。ギリシャ哲学、中国哲学、聖書、そして現代の作家や思想家の書物が取り上げられています。すべての読み物は短く、英訳も用意されています。受講者は講義中にグループディスカッションに参加することが推奨されます。基本的な英語力があれば十分ですが、できるだけ英語で考え、共有するよう努めてください。このコースは、英語での読解力、思考力、そしてコミュニケーション能力を磨くためのものです。

※春学期と秋学期の講義内容は異なります。連続性のある講座内容ではありませんので、秋学期からの受講も歓迎いたします。

日　程

①10月7日(水)17:30-19:00　③11月11日(水)17:30-19:00
②10月21日(水)17:30-19:00　④11月25日(水)17:30-19:00

日本語で学ぶ

民間レベルの平和構築の試み

ー広島発・長崎発の四つのエピソードー

日　程

①10月29日(木)19:00-20:30　③11月19日(木)19:00-20:30
②11月12日(木)19:00-20:30　④12月10日(木)19:00-20:30

講師：名誉教授　髙祖 敏明

第二次世界大戦が終結して80年。世界の平和構築を目指して来たはずなのに、戦火戦乱は止むことを知りません。大戦後に創設されたユネスコはその憲章に「戦争は人の心の中に生まれるものだから、人の心に平和の砦を築かなければならない」と訴えています。この講座では、民間レベルで平和の砦を人の心に築こうとした人々のエピソードを、広島発を二つ長崎発を二つ紹介し、オムニバス形式で民間人による平和構築の試みについて一緒に学びたいと思います。児童の絵が広島とワシントンDCを結んだ事例、アメリカの従軍カメラマンが封印していた戦後日本の写真を再発見して平和への貢献に努める事例、潜伏時代・信徒発見(神父発見)・　浦上四番崩れ・原子爆弾の被爆と続く浦上キリシタンの歴史的巡礼の旅の事例、そして広島の平和記念聖堂建設秘話と聖堂の特徴を取り上げる予定です。先人の苦闘の歴史に学びながら、未来への希望を探りたいと思います。

※2026年度春学期とほぼ同一内容となります。

毒の魅力

ー毒から薬へー

日　程

①10月2日(金)18:30-20:00　③10月30日(金)18:30-20:00
②10月16日(金)18:30-20:00　④11月13日(金)18:30-20:00

講師：名誉教授　笹川 展幸

”毒を以て毒を制す”、”毒にも薬にもならない”、”綺麗な花には毒がある” 等、数々の言葉に毒が登場します。我々を取り巻く環境には植物・動物・菌類等に由来する多種多様な毒が存在し、日常生活は毒と共にあると言えるでしょう。我々はこれらを意識的に、または無意識のうちに摂取しながら生きています。毒をただ恐れたり、興味本位に扱うのではなく、確かな科学の目で分析し、その有害作用の発現メカニズムや有用性を理解することにより、生体の不思議さ・命の尊さを毒を介して知ることを本講座の目標とします。また、薬の歴史は人類と毒との関わりの歴史とも考えられ、原始の試行錯誤の経験から現代に至る毒の研究の蓄積が多くの有用な薬の誕生に繋がりました。毒の歴史、その由来、人間との係わり、薬との関係などを解説し受講者の好奇心を刺激したいと思います。本講座を通して毒を知ることで、我々が体内に取り込む多くの化学物質を科学的に見直すきっかけになる事を期待します。

※2025年度秋学期とほぼ同一内容となります。

今、平和を考える

ー紛争解決への模索ー

日　程

①11月18日(水)18:30-20:00　③12月9日(水)18:30-20:00
②12月2日(水)18:30-20:00　④12月16日(水)18:30-20:00

講師：名誉教授　都留 康子

「平和学」って何？？　聞いたことがないと疑問に思う人もいるかと思います。この講座では国際政治学の視点から、平和とは何かを考え、その解決策(あるとして)を受講生のみなさんと共に考えます。「始めるのは簡単、でも終わらせるのは難しい」という現実を、ウクライナ、イスラエル、パレスチナ、イランで我々は目の当たりにしています。日本にいると、遠い世界で起きていることのように思いがちですが、近隣諸国との関係を考えると、日本も平和は当たり前のことではなくなっています。紛争が起きた時に、力には力で対応するしかないのか、平和と秩序や正義とはどのような関係にあるのか、多角的に考えてみましょう。なお、本講座では特定の時事解説を行うのではなく、平和をめぐる理論や考え方を軸に、その背後にある仕組みや価値観に目を向け、より深く平和を捉える視点を提供します。

※講師肩書は、2026年7月時点

教養としての組織論
－個人と組織の統合－

日　程
①10月2日(金)18:30-20:00　③10月30日(金)18:30-20:00
②10月16日(金)18:30-20:00　④11月13日(金)18:30-20:00

講師：名誉教授　小林 順治

今期は、組織論の本源的な問題である「個人と組織の統合」を取り上げます。近代以降の組織論は、前半の機械論的組織論と後半の行動科学的組織論に大別することができます。機械論的組織論は、近代工業社会の急速な発展の原動力となった大規模な経営組織の実態を反映したものです。近代化の経済的側面である「産業化」は、「高度大衆消費社会」と呼ばれる、人類がそれまで経験したことのない「豊かな社会」を実現しましたが、それは「官僚制」の特徴を色濃くもつ大規模な経営組織がもたらす高度な能率によるものでした。しかし、組織がより高い能率を追求し、ますます大規模化するのに伴って、深刻な事態が顕在化してきました。それは、組織メンバーである個人が、組織において人間らしく生きられないという事態であり、「人間性の疎外」という問題です。近代の経営組織は、一方で高度な能率を追求しなければならないという要求と、他方で組織メンバーが人間らしく生きるという要求とのジレンマに直面することになりました。経済的な豊かさは、精神的な幸せと必ずしも一致するものではありません。機械論的組織論は、組織メンバーを「機械の歯車」にたとえるように、人間不在の組織論でした。それに対し、「人間性の疎外」問題を克服するための新たな組織論として、人間行動の科学的理解に基づく行動科学的組織論が登場してきました。20世紀後半に主流となったこの流れは、人間尊重の組織論ということもできます。「個人と組織の統合」は行動科学的組織論が目指す究極的な目的です。個人と組織の関係についての理解は、現代人の教養の重要な一部です。※板書によって講座を進めます。筆記用具の用意をお忘れなく。

哲学的対話で考える人間と世界
－深く豊かな地球市民的思考のために－

日　程
①10月29日(木)18:30-20:00　③11月26日(木)18:30-20:00
②11月12日(木)18:30-20:00　④12月10日(木)18:30-20:00

講師：元文学部 哲学科 教授、哲学研究者　寺田 俊郎

「哲学」と聞くと難解で近寄りがたいイメージをもたれる方が多いかもしれません。たしかに学問としての哲学にはそういうところがあります。しかし、もともと哲学とは、人間として生きていくなかで誰もが出会う問いを、自分で考え、他の人々と共に考えるという、人間にとって最も基本的な知的営みです。そのような観点から、現代では「哲学カフェ」や「哲学対話」などの形で哲学を楽しむ人も増えています。この意味での哲学は、現代社会のさまざまな問題に向きあう地球市民にとっても基本的な教養、技能だと言ってよいでしょう。本講座では、哲学の歴史や理論を学ぶのではなく、哲学的対話を実際に試み、人間と世界をめぐる基本的な問いを、ゆっくり、じっくり、考えたいと思います。それは楽しいことであるだけでなく、地球市民として現代社会を生きるために必要な深く豊かな対話的思考の基礎を築くことでもあります。
※2026年度春学期とほぼ同一内容となります。

和平調停と平和構築の課題
－イラン戦争、ガザ紛争、ウクライナ戦争、南スーダン内戦、アフガニスタン－

日　程
①12月4日(金)20:00-21:30　③12月18日(金)20:00-21:30
②12月11日(金)20:00-21:30　④2027年1月8日(金)20:00-21:30

講師：グローバル教育センター 教授　東 大作

世界を揺るがす、イラン戦争、ガザ紛争、ウクライナ戦争、南スーダン内戦、アフガニスタンなどを例に、戦争を終わらせるための努力である「和平調停」や、停戦後に持続的な平和を作るための「平和構築」活動の、現代的な課題について、(高校生でも分かるような内容)で優しく教えます。私は、これまで、ガザ紛争や、シリア内戦、アフガニスタン戦争、南スーダン内戦などについて現地調査を繰り返しており、その内容も共有します。またアフガニスタンにおける国連政務官や、ニューヨークの国連日本政府代表部の公使参事官などの実務経験もあり、そうした経験も共有していきます。

『はてしない物語』(M・エンデ著)に学ぶ人間学
－想像力と人間の成長－

日　程
①10月9日(金)18:30-20:00　③11月6日(金)18:30-20:00
②10月23日(金)18:30-20:00　④12月4日(金)18:30-20:00

講師：神学部 神学科 教授　片山 はるひ

2025年度の講座では『モモ』をとりあげましたが、2026年度は同じM・エンデの傑作『はてしない物語』を取り上げます。この作品は3年間にわたって執筆された大作で、エンデが「想像力の世界」を舞台に描きだした物語は、聖書をその骨格として展開されてます。本講座では、借用とパロディについて論じ、一人で読むだけでは気づかない聖書からの借用を解説します。そして、バスチアン少年の心の旅が人間の普遍的な成長の旅でもあることに注目し、特に「愛すること」における成長について掘り下げてみたいと思います。長い作品ですので、時間をかけて少しずつ読み解いてゆく予定です。作品の中の深い人間学的考察に学びつつ、自らの生き方についてゆっくりと考察できる一時となれば幸いです。

感情を歴史する
－感情史研究の現代的意義と可能性－

日　程
①10月13日(火)19:30-21:00　③11月10日(火)19:30-21:00
②10月27日(火)19:30-21:00　④11月24日(火)19:30-21:00

講師：文学部 史学科 教授　森田 直子

現代社会においては「感情」が大きな役割を果たしています。それは、政治への「怒り」の感情が選挙の際に力になったり、エンパシー(共感力)や心の知能指数(EQ, emotional quotient)の育成が重要だ、と言われたりすることのなかにも見て取れるのではないでしょうか。現代の歴史学においても「感情」は関心を集めており、例えばジェンダーにフォーカスする歴史研究がジェンダー史と呼ばれるのと同様、「感情史」と呼ばれるアプローチが注目されています。本講義では、感情史が登場した歴史的背景をひもときながら、私たちが感情とみなすものの歴史性を明らかにする一方で、感情史とはどのようなものでありうるのか、そこにいかなる可能性(限界も含む)が見出せるのかといった問いを、具体的な事例をもとに受講者とともに考えます。
※2025年度・2026年度春学期とほぼ同一内容となります。

2030年代の日本の中学校・高等学校のあり方を考える

日　程　①12月10日(木)19:30-21:00　③2027年1月14日(木)19:30-21:00
②12月17日(木)19:30-21:00　④2027年1月21日(木)19:30-21:00

講師：総合人間科学部 教育学科 教授　相澤 真一

2020年代に入り、少子化が新たなステージに入りつつあり、中学校、高等学校の統廃合がさらに加速してきています。特に、地方での動きは激しく、高校入試のあり方も変わらざるを得なくなったり、私立学校では学校経営自体の重要な変革が迫られる事態が起きています。講師は、この事態に対して、できる限り全国にアンテナを張りながら研究を続けてきましたが、それでも日々驚くほどの社会状況の変化を目の当たりにします。講師自身が把握している現状の変容を情報提供した上で、さらに受講生の皆様との間で全国の状況について情報交換していき、近未来ながら大変容の予測される2030年代の中学校・高等学校段階の学校教育について一緒に考えていきたいと思います。

心を情報処理機構として捉える
ー認知心理学への招待ー

日　程　①10月13日(火)18:00-19:30　③11月10日(火)18:00-19:30
②10月27日(火)18:00-19:30　④11月24日(火)18:00-19:30

講師：総合人間科学部 心理学科 教授　日髙 聡太

例えば、誰かに褒めてもらい、嬉しい！と感じたとき、「心」が働いている実感が得られると思います。では、なぜ受け取った言葉が「褒めている」内容と分かったのでしょうか？そもそもなぜ、音や文字のかたまりを言葉として認識できるのでしょうか？私たちが普段の生活の中で当たり前のことだと考えている、見たり、聞いたりすること、そしてその内容を解釈することは、実は心の重要な働きなのです。心理学の専門領域の一つである「認知心理学」では、人の心を情報処理機構として捉え、私たちの周りにある事柄が認識される仕組みを研究しています。本講座では、そのような私たちの心の情報処理機構としての側面の一端について、様々なデモンストレーションを交えながら紹介し、一緒に考えてみたいと思います。
※2025年度 春・秋学期、2026年度春学期とほぼ同一内容となります。

パブリック・ヒストリーから考える社会貢献
ー大学アーカイブズの活動を事例としてー

日　程　①11月25日(水)19:00-20:30　③12月9日(水)19:00-20:30
②12月2日(水)19:00-20:30　④12月16日(水)19:00-20:30

講師：文学部 史学科 教授　北條 勝貴

近年、歴史学の各分野で、歴史研究・歴史叙述を専門家の独占から解放し、一般社会のひとびととともに考えてゆくパブリック・ヒストリーが盛んになっています。そこでは、史料を読解し過去の事実を云々するだけでなく、わたしたちが直面しているさまざまな社会課題について、歴史的な知見を援用し解決する方法が模索されています。例えば、災害史の知識は、防災・減災のリスク管理に役立ってくれるのか。伝統や文化財の保全と環境の改変・開発とは、どのように折り合いをつけてゆくべきなのか…。しかし、それらをめぐる合意形成の現場では、さまざまな難問も横たわっていて容易な解決を許しません。本講座では、担当教員が関わってきたフィールドの諸問題を事例に掲げ、歴史学の応用のあり方について考えます。なお今年度は、「自校史」や大学アーカイブズを意識したトピックを扱う予定です。
※本講座は全4回のオンライン講座として実施しますが、希望者を対象に、四谷近隣を巡る、エクスカーション（地域の歴史、文化、自然などを専門家の解説付きで体験・視察する体験型見学会）を12月19日(土)に行います。上智大学の歴史に関心のある方、思い入れのある卒業生の方もご参加ください。

国家は人をどう生かすのか？
ー「福祉国家」の過去・現在・未来ー

日　程　①11月17日(火)18:30-20:00　③12月15日(火)18:30-20:00
②12月1日(火)18:30-20:00　④12月22日(火)18:30-20:00

講師：総合人間科学部 社会福祉学科 教授　平野 寛弥

「福祉国家」とは、資本主義がもたらす貧困や不平等に対応するために、19世紀末から20世紀にかけて発展した近代国家の一類型です。その特徴は、"人を生かす"国家であるという点にあります。欧米諸国では第二次世界大戦後に大きく発展を遂げ、「ゆりかごから墓場まで」という有名な言葉に代表されるように、国家が国民の生活を保障するための仕組みが確立されたことはよく知られています。日本でもそれらの国々を参考にしながら、独自の福祉国家を形成してきました。しかし、1970年代を境として、それらの福祉国家はいずれも転換期を迎え、様々な再編を経て現在に至っています。社会経済及び国際情勢の変化も著しい状況の中で、今後、福祉国家はどこへ向かうのでしょうか。この講座では、福祉国家のあゆみを、"人を生かす"ための思想と手法の変遷に着目して振り返るとともに、今後の福祉国家のゆくえについて展望してみたいと思います。

行動経済学者と考えるこれからの資本主義社会での働き方・生き方

日　程　①10月28日(水)18:30-20:00　③12月2日(水)18:30-20:00
②11月18日(水)18:30-20:00　④12月16日(水)18:30-20:00

講師：経済学部 経済学科 教授　川西 諭

物質的な豊かさを追求してきた20世紀型の資本主義社会は環境問題、貧富の格差、社会的孤立など、多様な問題を生んでしまいました。日本社会はその典型で、最も豊かな国の一つでありながら、幸福度が低く、自殺者が多い社会となってしまっています。行動経済学は人間行動の科学的な知見に基づいて、経済行動や経済現象を理解しようとする学問で、人々の幸福についても研究が進んでいます。この講座では、資本主義社会の光と影の部分を行動経済学の視点から理解し、その中でどのように働いていくべきか、生きていくべきかを受講者の皆さんと一緒に考えていきます。
※2026年度春学期および過年度講座とほぼ同一内容となります。

※講師肩書は、2026年7月時点

AIの社会への貢献と課題

日　程　①11月6日(金)18:30-20:00　③12月4日(金)18:30-20:00
②11月20日(金)18:30-20:00　④12月11日(金)18:30-20:00

講師:経済学部 経済学科 教授　倉田 正充

現代の人工知能(AI)は人間社会にどう貢献しているのでしょうか。あるいは、そこには何らかの弊害も生じているのでしょうか。第３次AIブームにより社会が大きく変容している現在、これらの問いに対する「答え」も日々変化し続けています。開発途上国では、確かにAIを含むデジタル技術により医療や教育、金融などサービスの質が大幅に向上している分野があります。他方で、AIやロボットによる自動化技術により雇用が奪われたり、AIを利用できる人々と利用できない人々の間で格差が拡大するのではないかといった懸念を上げる声も少なくありません。この講座では、AIが貧困削減をはじめ持続可能な開発目標(SDGs)の様々な目標に対してどのように貢献できるのか、あるいはどのような負の影響を及ぼしうるのかについて、最新の事例や研究を通して学習します。扱うトピックは貧困、農業、環境、医療、教育など多岐にわたります。様々な分野におけるAIの功罪を問うことで、私たち自身の今後の暮らしや社会について考えることを目指します。
※2026年度春学期および過年度講座とほぼ同一内容となります。

データから読み解く地域とジェンダー平等

日　程　①11月7日(土)10:00-11:30　③12月5日(土)10:00-11:30
②11月21日(土)10:00-11:30　④12月19日(土)10:00-11:30

講師:経済学部 経済学科 准教授　竹内 明香

日本におけるジェンダーギャップの現状と課題について、統計データや研究資料を手がかりに、身近な事例と結びつけながら考えていきます。冒頭では、都道府県別のジェンダーギャップを可視化したデータを見ながら、受講生の皆様それぞれの経験や関心事を共有し、本講義で扱うテーマを整理します。講義の中では、Excelを用いて公的統計データを実際にダウンロードし、データの見方や扱い方も体験します。その後、ジェンダーギャップ指数がどのように作られているのかを確認し、教育、仕事、産業構造など、日常や職場とも関わりの深い分野における格差の実態を、公的データや論文をもとに読み解きます。
※2025年度秋学期とほぼ同一内容となります。

教養としてのフランス革命史

日　程　①10月15日 (木) 18:30-20:00　③11月12日 (木) 18:30-20:00
②10月29日 (木) 18:30-20:00　④11月26日 (木) 18:30-20:00

講師:外国語学部 フランス語学科 教授　高橋 暁生

本講座では「フランス革命史」を最新の研究成果も交えながら学びます。「世界史」「日本史」に苦手意識を持つ人も多いのではないでしょうか。そもそも「何のために歴史なんて勉強／研究するの？」という疑問を耳にすることも少なくありません。「過ちを繰り返さないために歴史を学ぶ」という主張は正しいですが、これは一面を言ったに過ぎません。「歴史」を学ぶことは、私たちが生きている「現在」を理解するために不可欠な営為なのです。バスティーユ牢獄の陥落、国王一家の逃亡事件、革命戦争の勃発、ルイ16世の処刑、恐怖政治、ナポレオンの台頭など、10年余りにおよぶフランスの激動は一つの歴史物語としてシンプルに魅力的ですが、そうした「歴史物語」をサイドストーリーとして楽しみつつ、この講座では「デモクラシー」「ジェンダー」「記憶」といったいくつかの現代的トピックについて考える機会を提供します。

ラテンアメリカから発信された経済思想
ー豊かで平等な社会を目指してー

日　程　①10月26日(月)18:30-20:00　③11月23日(月)18:30-20:00
②11月9日(月)18:30-20:00　④12月7日(月)18:30-20:00

講師:外国語学部 イスパニア語学科 教授　谷 洋之

ラテンアメリカ(中南米)は、豊かな資源に恵まれながら、深刻な貧困や格差の問題に悩まされてきた地域として知られていますが、それに抗うように、豊かで平等な世の中を目指してさまざまな経済思想が育まれてきた地域でもあります。この講座では、そのような経済思想の一部を垣間見ることで、ラテンアメリカ地域が辿ってきた足取りを学ぶとともに、格差が拡大しつつあるともいわれる日本社会に暮らす者として、ラテンアメリカから何が学べるかについても考えてみたいと思います。地球の裏側を見ることで我が身を振り返る、そんな講座にできればと思っています。
※2025年度秋学期とほぼ同一内容となります。

アメリカと世界、そして日本

日　程　①10月17日 (土) 14:30-16:00　③12月19日 (土) 14:30-16:00
②11月21日 (土) 14:30-16:00　④2027年1月16日 (土) 14:30-16:00
※対面型は大阪サテライトキャンパスにて開講

講師:総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授　前嶋 和弘

国内の激しい分断が続くトランプ第二次政権のアメリカ。これからのアメリカ、世界、そして日本の今後を本講座では展望します。覇権国・アメリカはどこに行くのか。ロシア・中国との対立はどうなるのか。日本への影響はどうなるか。そして国際秩序はどう変容するのか。この激動の時代の私たちの針路を受講者の皆さんと検討します。具体的には、講座時点で最も重要な話題を取り上げて論じながら、激変する国際関係の変化を読み解き、今後の私たちの針路を考えていきます。最新のお話をこれまでの政治の文脈でとらえ直す形ですので、復習的に振り返る部分はありますが、過去の講座とは大筋では重複しない形ですので継続受講も歓迎いたしますし、新規受講者にとっても分かりやすくお話をいたします。

国際人権規範を使って、自分の暮らしと社会を変えてみよう ―「学ぶ」から「動く」へ―

日　程　①10月14日(水)19:30-21:00　③11月11日(水)19:30-21:00
②10月28日(水)19:30-21:00　④11月25日(水)19:30-21:00

講師：総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授　田中 雅子

「世界／社会を変えたい」なら、その一員である「自分が変わる」ことから始めてみてはどうでしょうか？他人事だと思っていたことが自分と関わっていること、個人的なことが地球規模課題とつながっていること、日々の暮らしは政治や社会運動によって変わり得ることを事例から学び、実践につなげるヒントを提供します。性別、性自認、性的志向、年齢、障害の有無、民族、国籍や母語の違い、婚姻や家族構成、就労状況による立場の違いに起因する差別や格差に気づき、その克服を「ソーシャル・アクション」の実践を通じて学びます。1）自分自身の学びや行動変容による個人のアクション・2）仲間と学び、類似の活動を支援するコミュニティ・アクション・3）NGOなどの活動に参加し当事者と直に接する現場でのアクション・4）仕組みを変えていくための政策提言など社会に対するアクション の4段階をみなさんと議論しながら、デザインしてみましょう。
※2024年度以降、全体テーマは同じですが、参加者が持ちよる事例をもとに進行しますので、過去に受講された方の再受講も歓迎します。

世界は光と電子でできている

日　程　①10月14日(水)18:30-20:00　③11月11日(水)18:30-20:00
②10月28日(水)18:30-20:00　④11月25日(水)18:30-20:00

講師：理工学研究科 理工学専攻 特別契約教授　江馬 一弘

環境問題やエネルギー問題など多くの社会課題に対して、自然科学の立場からも考えるきっかけを与えるため、そもそも我々の世界は大元を辿ったら何からできているのか、という問いを本講座の中心に置きます。地球も人間も、原子・分子からできていて、その中で中心的な働きをしているのは光と電子です。春学期に開講した「我々の世界を構成しているもの ―光と電子の旅―」の発展版になりますが、春学期の講座を受講していなくても、基礎的な内容から始めるので大丈夫です。本講座では、光と電子がどのような形で我々の世界を構成しているのか、そして地球上のすべての活動は光と電子のおかげであることを講義します。専門的な知識は必要ありませんが、理解を深めるために、簡単な数式や化学式などはでてきます。光と電子の旅を通して、宇宙・地球・生命・エネルギー・環境などを広い視点から捉えていきたいと考えています。
※2025年度秋学期とほぼ同一内容となります。

デジタル技術のしくみを基礎から理解する

日　程　①10月12日(月)18:30-20:00　③11月9日(月)18:30-20:00
②10月26日(月)18:30-20:00　④11月23日(月)18:30-20:00

講師：理工学部 情報理工学科 教授　萬代 雅希

デジタル技術の急速な進展により、私たちの社会や生活は大きく急激に変わっています。オンライン会議やSNSなどのコミュニケーションが当たり前となり、生成AIは社会に大きなインパクトを与えています。私たちは普段あまり意識せずにデジタル技術を使っていますが、それがどのようなしくみなのかを知らない人が多いのではないでしょうか。本講座では、人工知能（AI）、モノのインターネット（IoT）、仮想現実（VR）、情報セキュリティなどのデジタル技術の基礎を学びます。専門知識がなくても無理なく学べるようにやさしく解説します。その上で、最先端の技術や研究に触れ、デジタル技術がどのように私たちの生活や社会を支えているのか具体例を紹介します。デジタル技術のしくみを基礎から理解することで、これからのデジタル社会をどう生きるかを一緒に考えたいと思います。
※2026年度春学期とほぼ同一内容となります。

サステイナブル社会への「移行」のエンジン
―仮想将来人と描く未来のルール―

日　程　①11月9日(月)18:30-20:00　③12月7日(月)18:30-20:00
②11月23日(月)18:30-20:00　④12月21日(月)18:30-20:00

講師：地球環境学研究科 地球環境学専攻 教授　中川 善典

気候変動や人口減少など、現代の社会課題の多くは「今の仕組み（レジーム）のまま、目標数値だけを改善しよう」とするアプローチでは限界を迎えています。本講座では、オランダ発祥の「社会移行（トランジション）研究」と、日本発祥の思考実験「フューチャー・デザイン」を融合させ、持続可能な社会への移行戦略を学びます。単なる環境問題の学習にとどまらず、グループワークを通じて受講者自身が「仮想将来人」になりきることで、自らを縛る「あたりまえ（思考の檻）」を相対化し、所属する組織や地域で「社会移行実験」という新たなエンジンを回すための視座と実践力を養います。本講座では、講義中に与えられた素材を深く解釈してもらうためのグループワークを行います。受講者の皆さん同士のコミュニケーションを円滑化するために、PCやタブレット（それが困難な場合はスマートフォン）等、インターネットにアクセスできる端末をご持参いただくことを推奨します。
※Wi-Fi環境をご用意します（TOKYO FREE Wi-Fiを利用）

「生き方」と「哲学」のかかわり
―古代・中世からみる近代とその諸相―

日　程　①10月28日(水)18:30-20:00　③11月25日(水)18:30-20:00
②11月11日(水)18:30-20:00　④12月9日(水)18:30-20:00

基盤教育センター キリスト教人間学領域 助教　松村 康平

古代ギリシア・ローマにおいて、哲学とは「生き方」そのものであり、生の変容を目指す具体的な実践でした。そういったあり方は、古代から中世へと伝えられつつも、次第に変容していきます。本講座では、近代哲学の出発点とされるデカルトの『省察』を入口にしつつ、その背後にある中世哲学やイグナチオ・デ・ロヨラの『霊操』、さらには古代の哲学的営みへと遡ります。そのうえで再び近代へとたどりなおすことで、私たちの社会が何をとりこぼしてきたのか、そして「生き方としての哲学」が現代を生きる私たちにもちうる可能性とは何かを、受講者の皆さまとともに考えていきたいと思います。

不確かな世界と向き合うための統計学のハナシ

日　程　①10月10日(土)14:15-15:45　③10月31日(土)14:15-15:45
②10月24日(土)14:15-15:45　④11月21日(土)14:15-15:45

講師：基盤教育センター 非常勤講師　鎌田 浩史

この講座では、統計学の基本的な考え方を通じて、「不確かな世界」に向き合うための視点を身につけます。平均や中央値といった"ふつう"の見え方、グラフが与える印象の操作、関係性と因果の違い、そして確率をもとに判断するということ――これらを身近な例から読み解きながら、数字やデータをどのように受け止め、どう使っていくべきかを考えていきます。専門用語や数式は最小限にとどめ、文系・初学者の方にもわかりやすく進めていきます。社会人や高校生、シニア層まで、データに対する"まなざし"を育てたいすべての方におすすめの全4回です。
※2025年度秋学期とほぼ同一内容となります

※講師肩書は、2026年7月時点

…オンライン講座　…対面講座

言葉のチカラと限界
ーコミュニケーションのもたらすものー

日　程　①10月19日（月）17:30-19:00　③11月16日（月）17:30-19:00
②10月26日（月）17:30-19:00　④11月30日（月）17:30-19:00

講師：ニュースキャスター、ジャーナリスト、法政大学 キャリアデザイン学部 講師　安藤 優子

コミュニケーションは、一方的な伝達ではないという原点を理解するための講座です。コミュニケーションにおいての言語、すなわち「言葉」そのものが相手に伝達できるのは、場合によってはメッセージのわずか7％に過ぎないという研究があります。これは、言葉の持つ「非明示性」にその根拠があります。つまり、言葉そのものが相手に明示できる限界が有り、コミュニケーションは明示されない「非明示」の部分をどう共通の理解にしていくか、という反復作業であるということです。講師の40年以上におよぶテレビ報道でのインタビューや取材経験を基に、コミュニケーションとは何かという理解を深め、共に考えて行こうというのがこの講義の目指すところです。コミュ力という言葉をよく耳にしますが、コミュニケーションに上手・下手はあるのでしょうか？コミュニケーションに優劣はあるのでしょうか？私の答えはノーです。もしあるとすれば、誠実か否かです。一緒にコミュニケーションについて考えてみませんか。
※2025年度秋学期に開講した講座「メディアと女性認識」とは別の内容となります。

地球市民の教養としての世界遺産
ー戦後80年　平和・気候・共生の未来ー

日　程　①10月10日(土)17:00-18:30　③11月7日(土)17:00-18:30
②10月17日(土)17:00-18:30　④11月21日(土)17:00-18:30

講師：ユネスコ世界遺産条約局 専門官　林 菜央

世界遺産は、単に「美しい場所」や「一度は訪れたい観光地」ではありません。そこには、戦争や災害を越えて受け継がれてきた記憶があり、異なる文化や価値観への尊重があり、そして壊れたものをもう一度立ち上がらせようとする人間の営みがあります。本講座では、歴史学・考古学を専門的に学び、国連機関で25年にわたり世界遺産の保護、国際会議、現地ミッション、政府・専門家・地域社会との対話に携わってきた日本人専門官が、世界遺産条約の理念と実務を、具体的な事例とともにわかりやすく紹介します。4回の講義では、世界遺産を「知識」として学ぶだけでなく、戦後80年の現代社会を生きる私たち自身の問いとして捉え直します。文化遺産を守るとは何を守ることなのか。地域の人々の暮らしと遺産保護はどのように両立できるのか。国際協力の現場では、どのように対話が生まれ、合意がつくられていくのか。そして、過去を記憶することは、未来をつくる力になり得るのか。キーワードは、Remember／記憶する、Respect／尊重する、Renaissance／再生する。世界遺産を入口に、歴史、文化、国際協力、人間の尊厳、そして地球市民としてのまなざしを育てる連続講座です。
※世界情勢の変化に伴う国際会議等、やむを得ない事情により、予定していた日程で開講できない場合があります。その際は、予備日（11月28日(土)）に講義を実施する、または当該回をオンデマンド配信により実施いたします。

Voice　2025年度秋学期 受講生の声

アメリカを軸とした国際関係の行方、世界情勢の見方について、多くを学ぶことができました。ウクライナやイスラエル、ベネズエラ等の話題が日々ニュースで伝えられるなか、講座を受講したことで、これまで理解できなかった事柄が少しずつではありますが、歴史的な背景や経緯を踏まえながら読みとれるようになりました。
アメリカと世界、そして日本
【講師：総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授　前嶋 和弘】

ジェンダーについて多角的に考える機会をいただいて有り難かったです。先生方の調査の進め方や分析の仕方なども勉強になりましたし、考察を交えながらのお話を受けて、色々なことを考えました。
地域からジェンダー平等を
【講師：経済学部 経済学科 准教授　竹内 明香】

薬として使われる身体に優しいものと、毒になるものについて深く学べました。また、生き物や植物はみな、自分の身を守るために様々な形で成長したり、生活したりしていることも感じられました。
毒の魅力
【講師：名誉教授　笹川 展幸】

物理学とは私たちの生活と切っても切れない学問なのだと再認識し、学生時代に苦手意識を持たずもっと積極的に取り組めば良かったという後悔を払拭して学び直しのきっかけとなる講座でした。
世界は光と電子でできている
【講師：理工学研究科 理工学専攻 特別契約教授　江馬 一弘】

従来の経済学とは異なる、人間の心理や行動の視点から経済活動を読み解き、不確かな時代を生きる私たちにより柔軟に生きる視点を提供してくれる講座でした。
行動経済学者と考えるこれからの資本主義社会での働き方・生き方
【講師：経済学部 経済学科 教授　川西 諭】

幅広い年齢やコミュニティに属している方々と同じ空間で、教授のお話を聞くだけでなく、ディスカッションや課題の発表等を行うことで、知見を広げることができました。
国際人権規範を使って、自分の暮らしと社会を変えてみよう
【講師：総合グローバル学部 総合グローバル学科 教授　田中 雅子】

歴史的に知っていることは子供の頃の教科書情報だけでした。講座を通じて学んだことは知らないことばかりで、改めて詳しく歴史を知ることができて良かったです。
潜伏キリシタンから「かくれキリシタン」へ
【講師：名誉教授　高祖 敏明】

受講者が体験できる簡単な実験を交えながらの講義で、脳の不思議を実感することができました。認知心理学という分野をあらためて知ることができ、大変興味深く拝聴させていただきました。
心を情報処理機構として捉える
【講師：総合人間科学部 心理学科 教授　日髙 聡太】

大学を卒業後、キリスト教教育から離れていましたが、今回の講義を通して、社会人になって以降、隣人愛の気持ちから離れてしまっていた自分に気づくことができ、「For Others, With Others」に立ち戻ることができました。
キリスト教教育の現在と希望
【講師：基盤教育センター キリスト教人間学領域 助教　松村 康平】

問い合わせ先

上智大学四谷キャンパス1号館1階

学事局 Sophia Future Design Platform 推進室

<2026年度秋学期 申込期間>7月1日（水）～各講座の初回講義日の2週間前まで

※定員に達した場合、早めに締め切る場合あり

お申し込みはこちら

紹介ムービーはこちら

https://sgcp.sophia.ac.jp/

global-citizen-co@sophia.ac.jp

上智地球市民講座

上智地球市民講座

2026年7月発行